



Penguin-boots
〒500-8182 岐阜市美殿町17 2F
衣装作家・服飾デザイナー 松田 悟さん
HP http://penguin-boots.com/
Tel.058-214-9987 Fax.058-214-9984

みたこともない 岐阜を 表現していききたい

衣装作家・服飾デザイナー



松田 悟さん
satoru matsuda

作品写真撮影/高山栄一



美濃和紙でつくった作品「輪廻転生」 この作品の意図は「宇宙」を表現する事がありました。それはSFとしての宇宙ではなく、もっと他の考え方でした。それが自分の中にある仏教感～般若心経の宇宙につながりました。(松田 悟)



2004美濃和紙ファッション
コンテスト・グランプリ受賞作品

昨年11月、京都で開かれたコレクションにて、美濃和紙でつくられたドレス「輪廻転生」を発表した衣装作家・服飾デザイナーの松田 悟さん。
「岐阜は今、まさに『再生の時』と語る松田さんの感性のもとに「岐阜」の素材で創り出されるデザインに、今注目が集まっています。

想像力は「柳ヶ瀬発祥」

生まれも育ちも岐阜市、柳ヶ瀬。松田さんは、幼いころの自分を「ピカピカしたまちで妄想にふける少年だった」と表現されます。賑わいにあふれきらめくまちで、常に何かを「形にしたい」という夢を抱きながら、最初に開いた扉はヘアデザインの道でした。働きながら学び、数年が過ぎた頃、その延長線上で次に開いた扉は「服飾」の世界でした。

思い立ったら動く、という松田さんは、当時注目を集めた玉宮町の真ん中にセレクトショップを開業。そこには自らの目で選んだ商品とともに、ギャラリースペースを併設しました。そのおかげで「多くの人に表現する・表現できる面白さが芽生え出した」そうです。

自分の「ハングリー」

松田さんのなかに「選んだものを売るのではなく、選ばれる作品を自らの手で作りたい」との想いが高まるのには、それほど時間はかかりませんでした。そして、新たに開いた扉は「デザイナー」。周りから「(年齢的に)遅いんじゃないか」と心配する声も聞こえるなか、デザイナーの専門学校へ。34歳の時でした。

「2004美濃和紙ファッションコンテスト」グランプリ受賞

専門学校では「人の倍学ばないと追いつけない」と、勉強の毎日でした。4年のカリキュラムを2年で全うして卒業。その直後「デザイナー 松田悟」の誕生を祝うかのごとく「2004美濃和紙ファッションコンテスト」にてグランプリを受賞。作品は、在学中に企画した「美濃和紙」で作られたドレスでした。

松田さんは、この受賞が「作品」から、製品(コレクション)「づくり」への区切りとなって、現在に至ると振り返ります。

「岐阜からの発信」こだわりたい

着々と制作を重ねるうちに、松田さんが発表するコレクションは東京が主な舞台となってきました。そして2010年、いよいよ東京に本拠を移そうと思った矢先――

「でも、違う…」

直前で東京行きを撤回した松田さん。その理由のいちばんは「素材」でした。

「岐阜は生地・縫製など、日本のトップレベルだからです」そう自信を持って語る松田さん。岐阜に留まり「岐阜だからこそ」を生かしたデザインで、東京に挑むことを決意しました。

2010年「東京コレクション」に出品

コレクションでは各方面から好評価を得、「ますますこれから…」という直後、松田さんはひとつの決断をしました。

「想いが違う…」

それは、「製品づくりの休止」でした。いったい、何が…

「いつからか、コレクションで発表する製品の受け入れられる年齢層と、自分のデザインの対象に考える年齢層に隔たりが出てきました」

そのギャップを取り戻すために、松田さんは「製品」から離れ、今一度「作品」づくりに没頭することを選んだのです。

以降、メーカーのショーや展示会、撮影用の衣装などの作品を手掛ける日々が続きました。もちろん「美濃和紙」をメインのモチーフに…。

そして、デザイナーとなり10年の足跡にと発表した「輪廻転生」。

奇しくも第一作目と同じく全てが「美濃和紙」でつくられたものとなりました。

輪廻転生

―表現は変われど、根底にある想いは変わらない

岐阜には昔から、竹や紙など「岐阜ならではの素材」を美しい形につくりあげる「職人の技」を繋いできた文化があります。

「私も岐阜の表現者の一人として、それらの歴史を、今できることの可能性に変えていければと思っています」

昨年から、岐阜で開催されるイベントのプロデュースにも積極的に力を注ぎます。

次々と、松田さんならではのフィルターを通して表現される「岐阜」。

さて、この続きには、いったいどんな表情をみせてくれるでしょうか。